

コレクション展Ⅲ

2019.11.23(土・祝) - 2020.3.1(日)

〈小企画〉

×	塩売りの	ト ラ ン ク
UNE VALISE DU	×	
MARCHAND DU SEL		
マルセル・デュシャンの		
×	「小さな美術館」	

〈特集〉

another usual days

もうひとつの日常

another usual days



2) 清水 登之《テニス・プレーヤー》 1918年 油彩・布



3) 今村 源《あるカタチ やかん》
2001年 アルミ、プラスチック

コレクション展 小企画=館外作品を中心とした小さな企画展 特集=収蔵品によるテーマ展

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて48年にわたり収集活動を続け、現在10,000点を超える作品を収蔵しています。それらは収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されますが、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化に富んだ常設展示をおこなっています。

2019年度より「県美プレミアム」から、「コレクション展」へと改称しています。

開催情報

2019年度 コレクション展Ⅲ

小企画「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの「小さな美術館」

特集 「もうひとつの日常」

会期 2019年11月23日(土・祝)～2020年3月1日(日)

開館時間 午前10時から午後6時(特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで)

入場は閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日(ただし1月13日、2月24日は開館、1月14日、2月25日の火曜日は休館)、
年未年始およびメンテナンス休館(12月31日(火)～1月10日(金))

会場 兵庫県立美術館 常設展示室

(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-0901 <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)

常設展示室6(小企画「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの「小さな美術館」」を開催)

常設展示室1～5、小磯良平記念室、金山平蔵記念室(特集「もうひとつの日常」を開催)

観覧料金

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金	[その他割引適用料金]			
				区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
一般	500円	400円	300円	70歳以上	250円	200円	150円
大学生	400円	300円	200円	障がい者 一般	100円	100円	50円
高校生以下	無料	無料	無料	障がい者 大学生	100円	50円	50円

※70歳以上、障がい者の方は証明できるものをご提示ください

※障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料

※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料

主催 兵庫県立美術館

協賛 公益財団法人 伊藤文化財団、株式会社ハーフ・センチュリー・モア(サンシティタワー神戸)

〈小企画〉



本展のみどころ

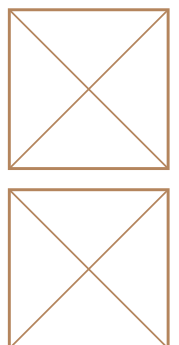
- ◇ 通常はなかなか見ることができない、《トランクの中の箱》内部の全ての要素を公開。
- ◇ 20世紀を代表する芸術家の一人、マルセル・デュシャンの代表作のひとつ、《トランクの中の箱》を「小さな美術館」として堪能できる。
- ◇ 自らの主要作品をミニチュアや複製によって再構成したデュシャンの意図に迫る。

開催趣旨

マルセル・デュシャンの《トランクの中の箱》は、デュシャン自身の主要作品のミニチュアや写真複製等で構成されたマルチプル作品です。それ自体も作品の一部である革製の「トランク」に全ての構成要素を収納することが可能で、デュシャン芸術が凝縮した「持ち運びできる、小さな美術館」（デュシャン）として作られています。

本作は、購入したコレクターが個人的に手に取って眺めるか、或いは美術館等で公開される場合にはその集合体的な性質が強調され、「トランク」の中やその周囲に個々の要素が折り重ねられる展示方法が一般的です。それ故、納められた構成要素が個々物として公共の場で提示される機会はあまりなかったといえます。

この小さな箱を「持ち運びできる、小さな美術館」と形容したデュシャンの言葉を文字通り受け取るひとつの方法として、この企画では、本作の個々の要素（80アイテム）の提示を試みます。可能な限り全ての要素を見ることが出来る状態で展示することで、各構成要素のひとつひとつに目を向けると共に、本作品の全体像を「見る」ことが可能になります。小さなトランクから次々と作品が現れる、本作独自の魅力もご堪能いただける機会となります。



作者マルセル・デュシャン

マルセル・デュシャン(1887-1968年)は20世紀を代表する芸術家のひとりであり、同時に非常に謎めいた人物としても知られています。画家として出発した彼は、次第に絵画や彫刻といった伝統的な芸術の枠組みから遠ざかり、大量生産された既製品を選択して作品とする「レディ・メイド」や、機械仕掛けの男女が織りなす「愛」の神話をガラス上に視覚化した《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも》(通称《大ガラス》)等、「芸術作品」や「芸術家」の概念を問い直す作品を多く発表しました。

関連事業

1. 講演会

「デュシャンと箱と美術館」

講師：平芳幸浩氏（京都工芸繊維大学准教授）

2019年12月22日（日）午後2時～（約90分）

レクチャールーム 参加無料（先着100名・要観覧券）

デュシャンの活動や作品について多数の著作がある平芳幸浩氏をお招きし、本展出品作品である《トランクの中の箱》やデュシャンの展示へのアプローチについてお話しいただく予定です。

2. 学芸員によるギャラリートーク

2019年12月14日（土）、2020年1月18日（土） いずれも午後4時～（約45分）

エントランスホール集合 参加無料（要観覧券）

〈特集〉

another usual days

もうひとつの日常

another usual days

開催趣旨

兵庫県立美術館では、前身の県立近代美術館が開館した昭和45(1970)年以来、作品の充実に努めてきました。それらを積極的に紹介し変化ある常設展示室の演出を心がけるために、当館では1年を3期に分けて、それぞれ展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介しています。

平成から令和へと時代をまたがった本年度第3期目となる今期の常設展示室では、「もうひとつの日常」と称して、複数に分かれた当館の展示室ごとにそれぞれテーマを設け、それらが相互に関連しつつ全体を循環する内容として企画しています。

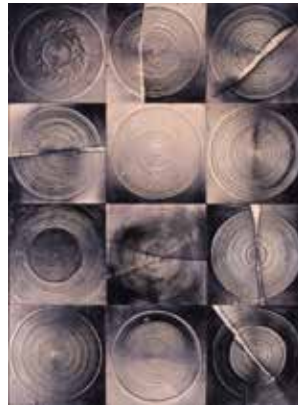
ふだんわたしたちがなにげないものとして認識している「日常」は、しかし戦争や災害などによって失われたとき、それ自体がかけがえのない存在として思い起こされます。美術家はそうした日常やあるいは非日常のそれぞれで表現活動を行い、美術館は機会があるごとにそれらを展示し紹介し、さらにはコレクションしてきました。それらが繰り返されることが、美術館のめざすべき姿といえるでしょう。本展示がそうした美術館のめざすべき姿へのひとつのささやかなきっかけとなれば幸いです。

展示構成

第一室 「朱夏：永遠に向かって」

大画面に無限に広がるストロークや色彩、無限に循環する円の動き。日々制作することを自らの日常の使命とした美術家の作品には、大作を志向する傾向の見られることがあります。ここでは、そうした循環する、あるいは永遠に続くイメージを喚起させる現代美術作品を中心に展示します。

(常設展示室1)



4) 名坂 有子《作品I》1964年
油彩・布



5) 泉 茂《MF20021》1974年
油彩・布

第二室 「白秋：この慈しむべき日常」

一方で美術家は、わたしたちの生活の取るに足らないような日常を、作品の制作を通じて可視化することもあります。作品に立ちあらわれた日常からは、その作品が制作された当時の生活様式や社会を垣間見せてくれることもあります。ここでは、そうしたなにげない日常を扱った作品を中心に紹介します。

(常設展示室2)



6) 中山 岩太《家族写真(清水登之家)》1922-26年 ゼラチン
シルバープリント
中山岩太の会所蔵(兵庫県立美術館寄託)

第三室 「玄冬：『非日常』という名の日常」

わたしたちの「日常」は、戦争や災害といったきっかけを元にその様相を変え、それまでとはまったく異なる意味合いをもたらすことがあります。ここではそうした状態にあって、美術が果たした役割、さらには美術作品が存在する／しないことの意味を再考します。

(常設展示室3)



7) 宇佐美 圭司《作品 No.5》1964年 油彩・布
 山村コレクション



8) ヤノベケンジ《アトムスーツプロジェクト：観覧車1、チェルノブイリ》1997年 ライトボックス
 ©Kenji Yanobe 1997

第四室 「青春：新たなる日常－永遠に向かって」

「非日常」という意味を再考した後、ふたたび「日常」を振り返るべく、わたしたちの生活のなにげない日常をとらえたさまざまな作品を展示し、美術家が手がけた作品と、その作品を鑑賞するわたしたちとの関係やそれぞれのかけがえのない「日常」を振り返ります。

(常設展示室4)



9) 吉原 治良《大阪朝日会館どん帳のための原画》1951年 油彩・布



10) 小坂 象堂《草摘み(摘草)》
 1897年 油彩・布

第五室 「近現代の彫刻」

前回に続いて、ブロンズや鉄などのさまざまな素材で制作された彫刻作品を展示します。

(常設展示室5)



11) 大西 伸明《koppu》2016年
 アクリル樹脂

小磯良平記念室

「もうひとりの小磯良平－肖像画と静物画を中心に」

清楚な女性像で名高い小磯良平には、「肖像画家」という側面もありました。とりわけ戦後には各界の高位な人々を描いてきました。それらをまとめて紹介するとともに、小磯の人物画に描きこまれるさまざまなモチーフを思い起こさせる静物画もあわせて展示します。

金山平三記念室

「もうひとりの金山平三－人物画を中心に」

日本各地の風景を印象深く描いてきた金山平三は、数が少ないながら人物画も手がけてきました。それらは金山独特の人物観察に基づく不思議な魅力を備えています。それらとあわせて、金山が小さな人物を描き入れた風景画も紹介します。



12) 金山 平三《さびれたる寛城子》1918年
油彩・布



13) 金山 平三《秋》1926年
デトランプ・布

関連事業

1. 学芸員による「もうひとつの日常」夜のガイドツアー

2019年12月21日(土)、2020年2月22日(土) 午後6時より(約60分)

参加無料、要観覧券、エントランスに集合

2. ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜日(ただし12月29日を除く) 午後1時より(約45分)

参加無料、要観覧券、エントランスに集合

※その他会期中に子ども向けのイベント等を実施予定。詳しくは当館ホームページでご確認ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0901 (代表) FAX: 078-262-0903 (代表)
<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること

営業・広報担当

TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

小企画「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの「小さな美術館」」

担当学芸員：河田亜也子、村田大輔

e-mail: kawada@artm.pref.hyogo.jp、murata@artm.pref.hyogo.jp

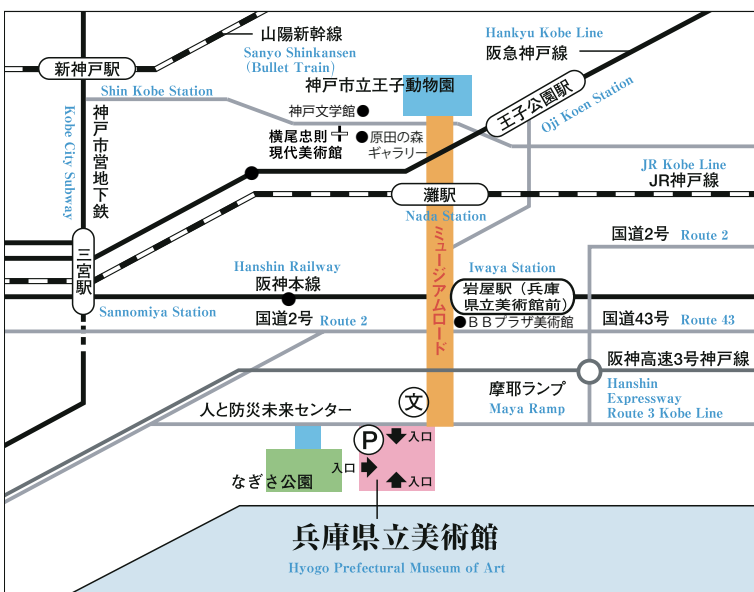
特集「もうひとつの日常」

担当学芸員：相良周作、江上ゆか

e-mail: sagara@artm.pref.hyogo.jp、egami@artm.pref.hyogo.jp

【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
*団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



広報用画像について留意事項

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。

○画像データ使用は、本展示会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。

○展示会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

広報画像申込書

コレクション展Ⅲ 2019年11月23日(土・祝)～2020年3月1日(日)
小企画「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの「小さな美術館」」
特集「もうひとつの日常」

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

1	「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの「小さな美術館」」展	ロゴ
2	清水 登之《テニス・プレーヤー》	1918年 油彩・布
3	今村 源《あるカタチ やかん》	2001年 アルミ、プラスチック
4	名坂 有子《作品I》	1964年 油彩・布
5	泉 茂《MF20021》	1974年 油彩・布
6	中山 岩太《家族写真(清水登之家)》	1922-26年 ゼラチンシルバープリント 中山岩太の会所蔵(兵庫県立美術館寄託)
7	宇佐美 圭司《作品No.5》	1964年 油彩・布 山村コレクション
8	ヤノベケンジ《アトムスーツプロジェクト:観覧車1、チェルノブイリ》	1997年 ライトボックス ©Kenji Yanobe 1997
9	吉原 治良《大阪朝日会館どん帳のための原画》	1951年 油彩・布
10	小坂 象堂《草摘み(摘草)》	1897年 油彩・布
11	大西 伸明《koppu》	2016年 アクリル樹脂
12	金山 平三《さびれたる寛城子》	1918年 油彩・布
13	金山 平三《秋》	1926年 デトランプ・布

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名:

○媒体名: (新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

○ご担当者名:

○メールアドレス:

ご連絡先 ○電話番号:

○FAX番号:

○ご住所: 〒

○URL:

○掲載・放送予定日:

○画像到着希望日:

○読者・視聴者プレゼント用招待券: 組 名 様分を希望

(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)